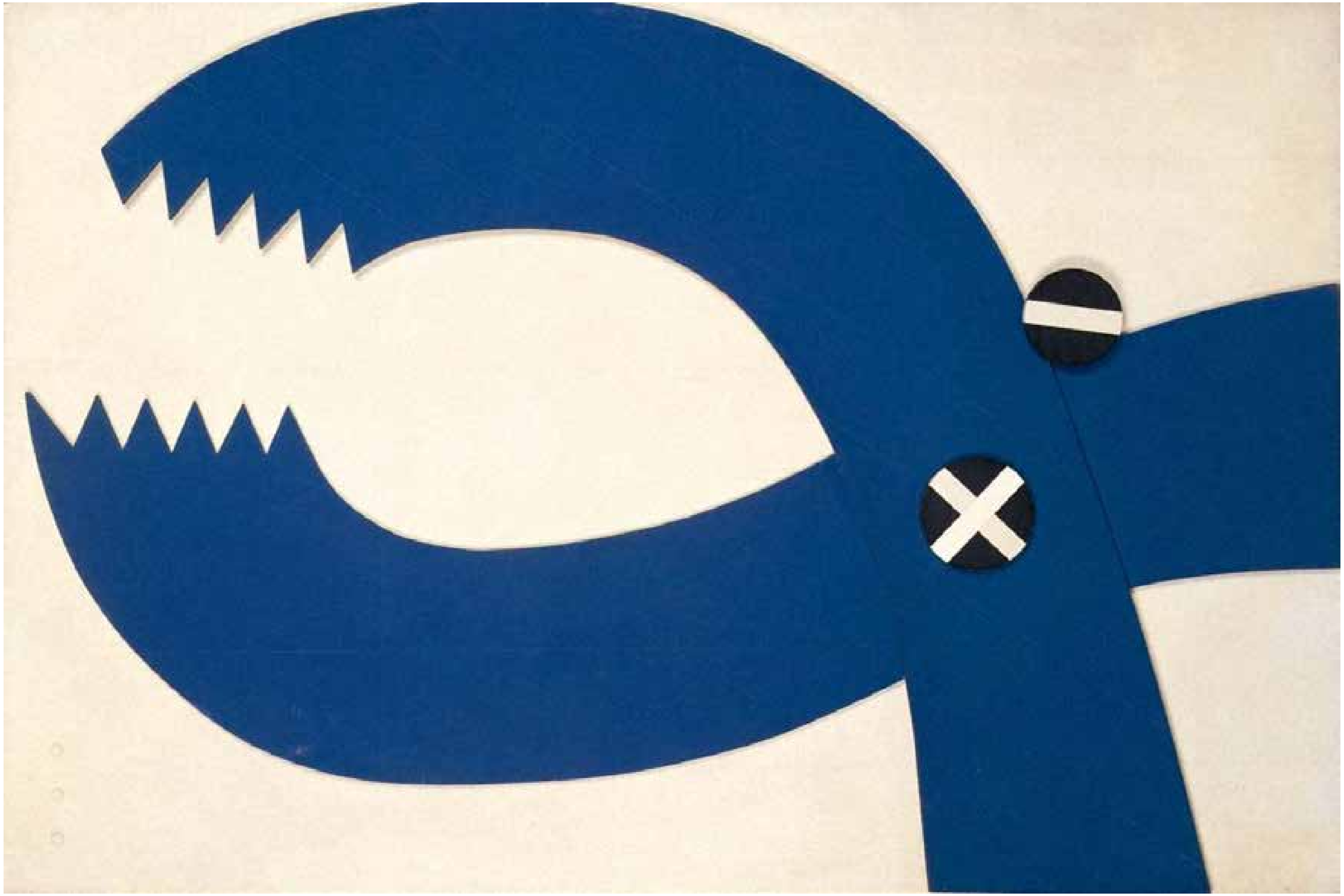
The Yamamura Collection: Gutai and the Japanese Avant-Garde 1950s–1980s



昭和を生きた社長
情熱の収集物語。

beyond 2020

ICOM KYOTO 2019

ICOM京都大会開催記念

集めた！日本の前衛――山村徳太郎の眼

山村コレクション展

2019年8月3日（土）――9月29日（日）

上／斎藤義重《ペンチ》1967年　兵庫県立美術館（山村コレクション）
左・裏面／村上三郎《作品〈空〉》の再制作を見守る山村徳太郎
1984年、アートスペース（西宮）にて　撮影：小野和則

休館日＝毎週月曜日（ただし祝日・振替休日の8月12日、9月16日、9月23日は開館し、翌火曜日の8月13日、9月17日、9月24日休館）

開館時間＝10時―18時（ただし毎週金・土曜日は20時まで）※入場は閉館の30分前まで

主催＝兵庫県立美術館、神戸新聞社　後援＝サンテレビジョン、ラジオ関西

協賛＝TKG Foundation for Arts & Culture、公益財団法人 伊藤文化財団

助成＝一般財団法人 安藤忠雄文化財団

兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

前衛美術の一大コレクション、
約20年ぶりの大公開!
抽象のパイオニアから、世界の「具体」、
80年代のニュー・ウェイブまで。
今こそ新鮮な前衛美術の数々。

「山村コレクション」とは、兵庫県西宮市に在住していた企業家、山村徳太郎(1926−1986)が収集し、1987年に当館に一括収蔵された作品群です(68作家、167点)。山村は「アブストラクト(=抽象)と人間くさい前衛のはざ間」という独自の方針のもと、まだ評価の定まらない新しい表現を、いずれは公共の財産となる前提で、自分の眼で確かめ集めました。結果、「山村コレクション」には、戦後美術史を語る上で欠かせない数々の重要作が含まれています。

この一大コレクションの全体像を、企画展示室に加え別棟のギャラリーも会場に、約20年ぶりに、かつ過去最大の規模で紹介します(出品数:約140点)。

「出会いこそ人生」——山村徳太郎の収集物語を大胆に再構成

本展では、関係者への聞き取りや文献資料などから知られざる収集の経緯を読み解き、いわば山村徳太郎の収集物語として展示を構成。さらに、具体美術協会に関するアーカイブ構想とも言える先取的な取組みも紹介します。

山村という一歩先を行く人物が、いずれもユニークなつくり手による作品と、どのように出会い魅了されたのか——展示室に描かれる物語を通じ、ご覧になる方もまた幾多の個性と出会い、その魅力を肌で感じていただく機会となるでしょう。

[観覧料]

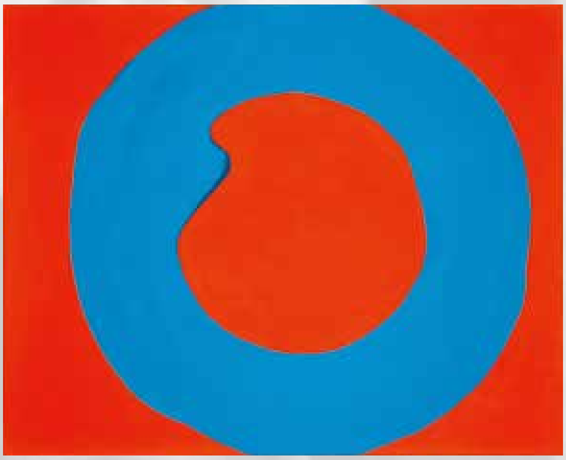
		当日	団体	前売
一般		1,300円	1,100円	1,100円
大学生		900円	700円	700円
高校生以下			無料	
70歳以上		650円	550円	
障がい者	(一般)	300円	250円	
	(大学生)	200円	150円	

◎団体:20名以上 ◎前売:8月2日(金)まで販売

※一般以外の料金には証明できるものの提示が必要です
※障がいのある方1名につき、介護の方1名無料
※70歳以上、障がいのある方は、会期中、館内券売所でのみ販売
※コレクション展の観覧には別途観覧料金が必要です
(本展とあわせて観覧される場合には割引あり)

[主なチケット販売場所]
兵庫県立美術館ミュージアムショップ(前売のみ)・阪神(当日一般のみ)・近鉄主要駅・JTBレジャーチケット(セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルK・サンクス、ミニストップ/前売券:0251427、当日券:0251428)

Find us on Facebook


1

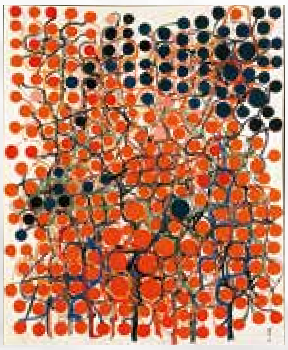
The Yamamura Collection
Gutai and the Japanese Avant-Garde 1950s–1980s

2

3

4

ICOM京都大会開催記念
集めた!日本の前衛——山村徳太郎の眼
山村コレクション展


5

6

1 吉原治良《作品》1966年
2 津高和一《母子像》1951年
3 白髪一雄《黄帝》1963年
4 篠原有司男《女の祭》1966年 ©Ushio + Noriko Shinohara, Courtesy of ANOMALY
5 田中敦子《作品》1958年 ©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
6 村上三郎《作品〈空〉》1956/85年 ©TOMOHIKO MURAKAMI
7 吉村益信《豚・pig lib;》1971年 いずれも兵庫県立美術館(山村コレクション)

[関連事業]

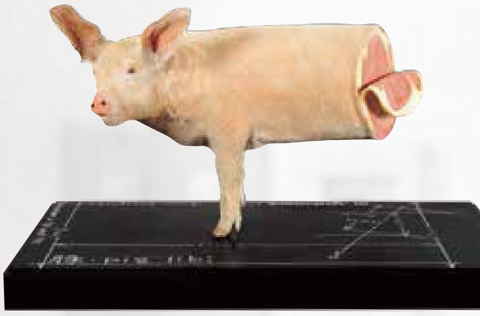
1. 記念講演会
「山村コレクションは美術館に何を問いかけるか」
尾﨑信一郎氏(鳥取県立博物館副館長)
9月1日(日)14時より(約 90 分)
ミュージアムホール(定員250 名)にて 聴講無料
※兵庫県立美術館「芸術の館友の会」会員優先席あり

2. 担当学芸員によるテーマ・レクチャー
①聞き取りと紙資料から描く「山村コレクション」収集物語
江上ゆか(当館学芸員)
8月24日(土)16:00〜(約60分)
②山村徳太郎の具体コレクション
鈴木慈子(当館学芸員)
9月14日(土)16:00〜(約60分)
いずれもレクチャールーム(定員100名)にて
聴講無料

3. 担当学芸員によるギャラリー・ツアー
8月17日(土)・9月21日(土)18:00〜(約45分)
展覧会場入り口に集合 要観覧券

4. こどものイベント
8月10日(土)
詳細は兵庫県立美術館HPにて7月上旬にお知らせします。対象:小学生以上、高校生以下
※小学2年生以下は保護者同伴必要
※7月10日(水)より電話受付開始予定。

5.ミュージアム・ボランティアによる解説会
毎週日曜日11:00〜(約15分)
レクチャールーム(定員100名)にて 聴講無料


7

[同時開催の展覧会]

●コレクション展Ⅱ
〈特集1〉けんび八景 —新収蔵作品紹介—
〈特集2〉没後80年 村上華岳
〈小企画〉美術の中のかたち —手で見る造形
八田豊展 流れに触れる
●横尾忠則現代美術館での展覧会
8月25日(日)まで:人食いザメと金髪美女—笑う横尾忠則展
9月14日(土)より:横尾忠則 自我自損展

兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 [HAT神戸内]
Tel.078-262-0901(代) http://www.artm.pref.hyogo.jp/

〈交通案内〉●阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分。●JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分。●阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分。●JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29・101系統)・阪神バス(HAT神戸行き)にて約15分、「県立美術館前」下車すぐ。※地下駐車場(乗用車80台収容・有料)※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください。※団体バスでお越しの場合はバス待機所のご予約をお願いします。